

開催日時：2013 年 11 月 22 日 15:00~16:00

開催場所：電通大 B 棟 102 教室

発足会参加人数：28 名 （事前連絡者数：46 人）

交流会参加人数：24 名（ハルモニア）

発足会概要

目黒会の安田会長、田村先生他のご出席をいただき、発足式を開催した。事前に目黒会会員全員への開催案内を行い、返事をいただいた 46 人のうち 28 人の方の参加を得た。最初に発起人（菅野）からの発足に当たっての考え方の後、安田会長、田村先生からの技術士会に対する期待のお話をいただいた。更に現状での会則等の概略を紹介し、その後技術士会の活動内容についての活発な意見交換がされた。

1. 発起人（菅野）の挨拶から技術士会での実施内容について
 - 大学の外部（企業）との研究開発支援
 - 学生への貢献：ex.大学授業で“技術者倫理”の講座対応
 - 学生への“技術士”制度の紹介
 - 日本技術士会との連携
 - ・ 大学技術士会との連携、他大学との連携
 - ・ 日本技術士会の登録簿から電通大出身技術士の拾い上げ
2. 安田目黒会会長
 - 以前から電通大出身技術士に“電通大技術士会”の提案をしていた
 - 電通大 OB の横の繋がりとして”中小企業診断士 “の会もあり、社会貢献につながっている
 - キャンパスクリエイトとしても専門知識を持った人に協力いただきたいと思っている。
 - 電通大の技術士として活発な活動をお願いしたい。
3. 田村先生（電気通信大学 産学官連携センター 副センター長 ／ 技術士（金属部門））
 - 日本技術士会の刊行月刊誌“技術士”9月号に記事を投稿したことがきっかけで連絡をもらった。
 - 電通大に“技術士会”があつていいと以前から考えていた
 - 私自身も神奈川県 の技術士会に属している。技術士のネットワークは独特なものがあり、電通大からも繋がっていく事で情報発信になる。
 - 記事の投稿内容は“URA（University Research Administrator）”についてである。日本の研究活動の低落状況に対して、研究をサポートするマネジメント人材が求められている。
 - 電通大は“文部科学省_研究大学強化促進事業”に採択された。ネットワークを生かし、電通大の研究をサポートしていただきたい。
 - 私自身、技術士の資格の取得で経験・苦労した内容で、学生が今後技術士の資格を目指すことの支援をしていきたい。
4. 配布資料（会則、計画、開催主旨等）の説明（発起人 遠峰）
 - 説明項目は別紙“「電気通信大学技術士会」発足会”参照
 - 会員対象の補足
 - ・ 会員対象として“社会貢献を目指す技術者”としており、技術士以外も対象とした。更に、

学生、電通大所属の教員（他大学卒業者も含む）としている

➤ 開催主旨の補足

- ・ 社会を経験した OB 主体の活動であり、大学と社会ニーズの接点を考慮した活動を行うことが“大学技術士会”としての活動の本質と考える。
- ・ この技術士会として具体的な目標を持って活動するというより、参加者が活動・活用でき、他の技術士会とつながりを持てる場を提供することに意義があると考えている。参加された方がその場を活用する事を主体に考えていただきたい。

5. 参加者からの意見（交流会での意見も含めて）

- ・ 技術士会として具体的に何をしたいのかが分からない。
- ・ 技術士会としてネットワークと活用の為のデータベースを作ってもらいたい。
- ・ まずは動きだしてから技術士会として何をするかは考えていけばよい
- ・ 調布市のシリコンバレーといったシンクタンクのようなものを作れないか。
- ・ 電通大出身者で構成されていると言う事で、情報交換やネットワーク活用に信頼感が持てる。
- ・ 技術士の一次は通ったが、二次試験に向けて何をしたらいいかわからないので、情報を得たいと思っている。
- ・ 技術士の資格は取得したが、どの様に技術士としてのネットワークを広げたらいいかわからないでいた。この場で技術士ネットワークについての情報を得たいと思っている。
- ・ この活動が技術士の地位向上につながることを期待している
- ・ 技術士の資格はないがコンサルタントをしている。技術士の資格の意味が分からない。
- ・ 他の大学の技術士会と比較して、技術士でない人も会員になっているところはこの一つの特徴と思う。



以上